

▶授業の目的と概要

地域の知の拠点である本学が彦根城の世界遺産登録の実現を学問的立場から支援する。彦根市が2025年をめどに市のシンボルであり滋賀大彦根キャンパスに隣り合う「彦根城」の世界遺産登録を目指す動きに合わせ、彦根商工会議所の委託により、世界遺産や無形文化遺産、世界の記憶等（以下「世界遺産」）を通して、学生たちに地域づくり、観光政策、地域文化の保存と活用などを学ぶ場を、一流の専門家であるゲスト講師により提供する。彦根城が2025年の世界遺産登録を実現するには、2023年に登録のために必要な推薦書素案などの書類を文化庁に提出し、彦根城の国内推薦を決定してもらう必要がある。このように、登録を目指す活動がいよいよ佳境を迎えることを踏まえて、今年の世界遺産学は「世界遺産登録の意義と意味を問い直す」とのテーマを掲げて開講する。彦根城のような歴史文化財が世界遺産になることにどのような文化的・学術的意義があるのか、またそれは地域社会にとってはどのような意味があり、どのような影響を及ぼし得るのかといった点を中心に、理論的かつ実践的に学んでいく。国内外の世界遺産の現状や課題を学習しながら、その意義を学び、受講生にとって身近な地域と世界の今後についても議論できるようになる。また、まちづくりや文化政策に興味を持ち、地元でのみならず世界の文化や遺産の保存・活用などに積極的に取り組める人材の育成も視野に入れる。

※授業は原則として対面で実施するが、新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、オンラインとの併用で実施する。

担当教員	経済学部 真鍋 晶子 教授／青柳 周一 教授 位田 隆一 前学長
開講曜限	金曜日 4 限（14：30～16：00）
開講日	4 月 7, 14, 21, 28 5 月 12, 19, 26 6 月 2, 9, 16, 23, 30 7 月 7, 14, 21
ゲスト講師	・青柳正規氏（元文化庁長官・多摩美術大学理事長・東大名誉教授） ・石丸紀興氏（㈱広島諸事・地域再生研究所代表、元広島大学教授） ・岩本渉氏（（独）国立文化財機構アジア太平洋無形文化遺産研究センター所長） ・河野俊行氏（前イコモス会長・九州大学教授） ・小林隆氏（彦根市歴史まちづくり部文化財課 彦根城世界遺産登録推進室） ・佐藤禎一氏（元ユネスコ代表部特命全権大使・元文部省事務次官） ・鈴木達也氏（滋賀県文化スポーツ部文化財保護課 彦根城世界遺産登録推進室） ・鈴木地平氏（文化庁文化資源活用課文化遺産国際協力室文化財調査官） ・田名真之氏（沖縄県立博物館・美術館長） ・中島誠一氏（元長浜市長浜城歴史博物館館長・元長浜市曳山博物館館長） ・中村正久氏（財国際湖沼環境委員会副理事長） ・西山要一氏（奈良大学名誉教授） ・松浦晃一郎氏（ユネスコ第8代事務局長・元駐フランス共和国特命全権大使） ・八重樫忠郎氏（岩手大学平泉文化研究センター客員教授） ・茨木恵美氏（彦根城博物館学芸史料課学芸員）
参考書情報	・「世界遺産学への誘い」／位田・真鍋・青柳編，サンライズ出版，2022年9月 ・「世界遺産学を学ぶ人のために」／奈良大学文学部世界遺産を考える会編，世界思想社，2000年10月 ※特定の教科書は使用しないが、理解の一助となる参考書として推奨